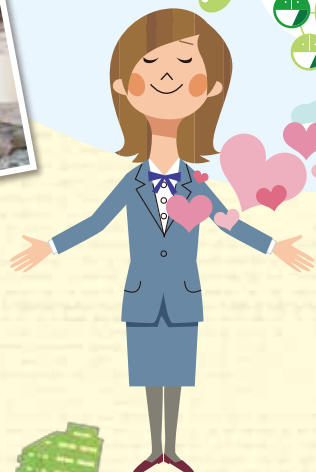


繊維業、窯業 日本一の愛知県

若者のチカラ

若手社員に聞いてみた
繊維業・窯業で働く魅力





繊維業

茶久染色株式会社 (一宮市)	2
----------------	---

◆ 技術部 花田 優希さん ◆ 技術部 仲井 万由子さん

中外国島株式会社 (一宮市)	3
----------------	---

◆ 商品企画部 田畑 知著さん

オカトク株式会社 (知多市)	4
----------------	---

◆ 仕上げ部 新海 恵里佳さん

有限会社ナカモリ (蒲郡市)	5
----------------	---

◆ 営業 武内 匠さん

窯業

合資会社双葉製陶所 (瀬戸市)	6
-----------------	---

◆ 成形担当 服部 渉太さん

合資会社マルワイ矢野製陶所 (瀬戸市)	7
---------------------	---

◆ セラミックス事業部 佐藤 慧さん

陶榮株式会社 (常滑市)	8
--------------	---

◆ 製造グループ成形チーム サスラー 朗敏さん

有限会社山源陶苑 (常滑市)	9
----------------	---

◆ TOKONAME STORE 店長 加藤 明夏さん

栄四郎瓦株式会社 (碧南市)	10
----------------	----

◆ 製造部生産管理係 今吉 銀河さん ◆ 製造部本社第1工場 柴田 将成さん

三州野安株式会社 (高浜市)	11
----------------	----

◆ 製造部 大屋 琢磨さん ◆ 品質保証部 仁木 綾香さん

◆ 商品管理部 野村 あやのさん

繊維業

身近にある、
いろいろなモノで
活躍中！

一人前には程遠い
ですが、いろいろな
ところで役に
立ちたいです。

奥が深くて難しい
けれど、親切に
教えてもらえます。

ちやきゅうせんしよく
茶久染色株式会社

技術部
仲井 万由子 さん
(2017年入社)
試験用の糸を染めています。

技術部
花田 優希 さん
(2014年入社)
生産現場の前段階として、
色を決定しています。

仕事内容

花田

お客様からの指示書にある色見本を基準として、その色を再現するために、染料をどのような配分で混ぜればいいのか。試験室で染めた糸の染料配分を数字として決める仕事です。まだ教わりながらやる部分もありますが、質問があればその都度、上司が丁寧に教えてくれます。

仲井

試験室で試験用の糸を染める仕事です。私が染めた糸を花田さんが確認して数値化するというのが、現在の仕事の基本的な流れです。
絵を学んだ経験から色に関する知識はありますが、絵と糸は全然違い、まだまだ学ぶべき事がたくさんあります。



● この仕事を目指したきっかけ

花田

就職先を探しているときに、先に内定が決まった同級生がいたことで茶久染色を知りました。それまで繊維業の知識がまるでなく、手作業の多い職業をイメージしていましたが、会社見学の際、機械での自動作業も多く、純粋に面白そうだなと印象が大きく変わりました。

仲井

大学で美術を学び、色に関する会社に就職したいと探していて、偶然見つけたのが茶久染色です。それまで絵を描くことばかり考えていて、繊維の色には気が付きませんでした。会社見学で、今まで見たことのない機械や、働いている人の真剣な表情を見て、面白そうな仕事だと感じました。

● この仕事の面白さ、やりがい

花田

作業の指針になる指示書には、その繊維の用途も書かれており、最終的に何になるかをイメージしながら仕事ができます。
たとえば有名なキャラクターが描かれる生地の色を再現するなど、知っているものに関わる場合は、特にモチベーションが上がります。

仲井

直属の上司が「いまやっている仕事が、こういうものになるんだよ」と、どのような用途で使われるのかを頻繁に教えてくれます。それを知ること、自分のやっている仕事为社会で使われていると改めて感じられて、やりがいになっています。

[会社紹介]

- 茶久染色株式会社
- 〒494-0001
愛知県一宮市開明字苅安賀道31番地
- TEL 0586-45-2345
- <http://www.chaq.jp>

弊社は、大正5年創業。繊維業のなかでも染色に特化した会社です。取引先の希望する色合いを的確に再現して繊維を染めるだけでなく、防災・難燃・帯電防止、吸水など、機能性を繊維に与える加工も取り扱っています。取引先は大手を含めて幅広く、納めた先で完成する品も、衣類や乗り物のシートなど多岐にわたります。

彼らは未来の主役になる立場。
経験を積みつつ好奇心を持って
新しいことにも挑戦してほしい。

技術部 次長
長屋 一昌 さん



繊維業

いつか人を感動させる
服地を作りたい。



素材の可能性や
面白さを感じることが
出来る毎日です！

ちゅうがいくにしま
中外国島株式会社

商品企画部
田畑 知著さん
(2014年入社)

仕事内容

服の素材となる織物を作る仕事です。

商品企画部では織物生地を作る仕事をしています。
アパレルデザイナーさんの生地デザインに合わせた織物生地を
作ることや、オリジナル生地の開発に携わっております。
糸選別に始まり染色や織り、仕上げの加工など、ひとつの生地が完成する
までの工程に関わる事が出来るとてもやりがいのある仕事だと思います。
今後の目標は、自分で企画した生地を自らの言葉で提案し、
それが服となることです。



● この仕事を目指したきっかけ

私は高校卒業後にサービス業へ就職し、約7年勤めています。以前から絵を描くことが好きで、やがてテキスタイルに興味を感じたことから、仕事を辞めて大学に入学することにしました。
在学中に参加した催事で中外国島と山田さんを知って、誘っていただけたのが、入社のきっかけです。



● この仕事の面白さ、やりがい

織物をひとつ作るのには、下請けの方も含めてたくさんの人の協力が必要です。そのコミュニケーションでは前職の経験が生きているように感じます。
織物は奥が深く、大学で勉強もしましたが、現場では今でも発見があります。4年ほどの経験で、仕上がりにある程度の予想はできるようになっていますが、思っていた以上のモノに仕上がることもあって、こうした良い意味での驚きや発見があったときは、特に面白みを感じます。今のところ、人から感動させられることばかりですが、いつか自分の作った生地で人を感動させたいと思っています。

【会社紹介】

- 中外国島株式会社
- 〒491-0931
愛知県一宮市大和町馬引字焼野48
- TEL 0586-45-0181
- <https://www.ckktex.co.jp>

弊社は直営工場を持ち、紳士服や婦人服に使われる服地を企画・製造して、国内外に販売する毛織物メーカーです。繊維産地として栄えた尾州(尾張地方の通称)の現存するメーカーとして最古の歴史があり、これまで培ってきた技術を背景に、伝統を守るだけでなく、時代に合わせたスタイルを提案しています。

商品企画部 取締役部長
山田 誠一さん

彼女に対しては、サポートは
しますがなるべく任せることを
意識しています。それがきっと、
仕事の「面白み」になるはずです。



繊維業

人間関係が良くて
働きやすい環境。



いずれ仕上げ部を
まとめる立場に
なりたいです。

オカトク株式会社

仕上げ部

新海 恵里佳さん
(2011年入社)

仕事内容

生産した綿織物の品質をチェックしています。

仕上げ部では生産工程の最後にあたる品質管理として、生地汚れなどの欠点がないかを確認しています。

また、最近は後輩ができて、仕事を教えるようになりました。私自身が新人の頃どうだったかを思い出して、分かりやすく教えられるように工夫しています。正しく理解していないとしっかり教えられませんから、勉強不足ではできません。仕上げ部に限らず会社全体で人間関係が良く、休みがとりやすいなど時間の自由が利くため、とても働きやすい環境だと感じています。



● この仕事を目指したきっかけ

接客の仕事が苦手で、高校卒業後にパートとして工場で勤めました。その後正社員待遇を求めて事務職に転職したものの、サービス残業が常態化していたため再び転職を決意。

その時近場で良さそうだと見つけたのがオカトクでした。3ヶ月の試用期間で感じたのは、周りの人が親切で良い人ばかり。ぜひここで働きたいと思いました。



● この仕事の面白さ、やりがい

初めて見るものや複雑なアヤの織物など、分りにくいものでも欠点を見つけられたときに、達成感を感じます。もし仕上げ部で見つけられなかったら、そのままお客さんのところに納品されてしまいます。それを防ぐことができたというのがやりがいにつながります。

経験を積むうちに、会社の他部署で働くことにも興味を感じるようになりましたが、いまの担当部署での仕事が楽しいので、この部署で一番頼られる存在になりたいと思っています。

【会社紹介】

■ オカトク株式会社

■ 〒478-0021

愛知県知多市岡田字向田61

■ TEL 0562-55-3025

オカトクは100年以上の長い歴史がありつつも、社会のニーズに合わせて柔軟に変化することのできる織物製造の会社です。

織機の改造による、産業研磨布(布やすり)分野への参入など、時代に合った工夫が弊社の長所になっており、多品種小ロットの生産に応じられる生産体制なども含め、取引先からの好評を得ています。

代表取締役社長
安藤 嘉嗣さん

新海さんは、経験を積んで、
今や頼れる存在。
これからも若い子をまとめて
現場を引っ張ってほしい。



繊維業

モノづくりの現場に近く、
ゼロから作り出せる。



やりたいことがあれば
挑戦させてもらえる
環境です。

有限会社ナカモリ

営業

武内 匠さん

(2015年入社)

仕事内容

自社製品を売り込み、ときに作り出す仕事。

営業職として、製品を小売店に卸す業務がある一方、OEMの供給元として、顧客に提案して一緒にモノを作っていく仕事があります。

また、自社ブランドを展示会に出展する際には、そのスタッフとしても働いています。小さな会社で営業職の人数が少なく、直属の上司は社長ですが、社長も営業として社外に出ていることが多いため、ある程度のことは自由にやらせてもらっています。そのため、責任は大きいものの、仕事のやりがいも大きいと感じています。小さい会社ならではの特権なのだろうと思います。



● この仕事を目指したきっかけ

大手タイヤメーカーの営業職として3年ほど勤めていましたが、家業(経通し)を継ぐために、修行のつもりで中瀬織布に転職しました。そして、モノづくりの現場で1年ほど経験を積んだ頃に、製品販売を担うナカモリの社長から、展示会スタッフとして手伝うよう頼まれました。それが非常に面白かったことでナカモリの営業に移りました。



● この仕事の面白さ、やりがい

前職では決まった商品を小売店に卸す、ルートセールスのような仕事でしたが、現在の仕事では、商品の形がないところから始まる場合もあります。要望を聞いてゼロから企画。顧客や作り手と相談しながら作り上げていくことができ、その過程には面白さもやりがいもたくさんあります。

モノづくりの現場がすぐ近く(下のフロア)にありますので、細かな調整にもすぐ対応できて、フットワークの軽さが心地よいです。また、海外の展示会に出展する機会が年に何度もあり、そうした活動は難しい反面、特にやりがいを感じます。

【会社紹介】

- 有限会社ナカモリ
- 〒443-0102
愛知県蒲郡市金平町折坂6-4
- TEL 0533-57-7811
- <https://nakase.jp/>

中瀬織布合資会社の製品販売会社として設立されたナカモリは、日本における綿織業発祥の地とされる三河地区(蒲郡市)に拠点があります。綿毛布やシーツ、カバー類、多重織ガーゼなどを主製品に、OEM生産に加えて自社ブランド「fuwara(ふわら)」も展開。国内だけでなく世界市場へも積極的に展開を進めています。

今後のビジネスは海外も重視。
語学スキルとハートを磨いて
世界でも活躍してほしい。

会長
中瀬 司さん



窯業

やりたかった夢が
実現しています。



地域や歴史に
関わっている。
地場産業で働ける
ことが嬉しいです。

ふたば せいとうじょ
合資会社双葉製陶所

成形担当

服部 渉太さん
(2015年入社)

仕事内容

型を使った手作業のやきもののづくりです。

生産する製品に応じた専用の型を使って、材料を流し込んで固まったら型を外し、成形する仕事です。基本的には手作業で行うものですし、型の新旧や気候によってコツが変わるなど、経験値の求められる点が多々あります。

学校で窯業を専門的に学び、陶芸部にも所属していましたが、個人の陶芸作家として生計を立てていくのは難しいと感じていました。それはいずれの夢として、いまは仕事をしながら、貴重な経験を積ませていただけています。

学校で学んだことが、現在しっかり役立っていると感じます。



● この仕事を目指したきっかけ

瀬戸の窯業高校専攻科を卒業時に、学校の先輩から双葉製陶所を薦められました。

もともと手作業でのやきもののづくりに興味があり、また、持病があって機械を使う現場で働くことが難しかったのです。先輩は双葉製陶所の取引先で働いているのですが、ここが手作業仕事で人手が足りていないと、まさに私が探していた、打って付けの会社を紹介してくれました。



● この仕事の面白さ、やりがい

手作業での成形は、手間だからこそやりがいがあります。ときには難しい型があって、どうやったら上手にできるか考えさせられることもあります。社長に相談しながら作業ができています。

中学生の頃からこの道に進みたくて、いま実際にその仕事に就けている。だから毎日の仕事が面白くて、やりがいを感じられています。

また、学校ではろくろを使った陶芸も学んでいたため、社長が「休みの日に使うと良いよ」と、ろくろ設備を入れてくれました。個人的な作品作りができる環境を作ってくださり、とても嬉しく感じています。



【会社紹介】

■ 合資会社双葉製陶所

■ 〒489-0921

愛知県瀬戸市田端町1-115

■ TEL 0561-82-4719

双葉製陶所は瀬戸物を製造する会社です。型を用いた鑄込み成形による生産が中心で、作業は基本的に手作業。複雑なデザインや長尺物など、機械での生産では難しい製品をさまざま製造しています。スタッフの誕生日を全員で祝うなど、経営者夫妻を中心とした数人規模の少人数企業だからこそ、家族的な経営スタイルも特徴です。

手作業の双葉製陶所で
働いているという自負を持ち
確かな技術を身につけてほしい。

代表

山本 修治さん



窯業

経験をもっと重ねて
仕事の幅を広げたい。



いろいろな部署で
仕事できて新鮮な
気持ちで取り組めて
います。

合資会社 マルワイ矢野製陶所
やの せいとうじょう

セラミックス事業部

佐藤 慧 (けい) さん
(2012年入社)

仕事内容

機械を使ってセラミックス製品を作っています。

会社全体では、原料から成形、焼成、加工、検査を一連の流れで作業しています。私の担当は、成形のなかでもCIP(ラバープレス)成形が中心ですが、成形の種類によって顧客が異なり、その顧客ごとの作業を一貫的に行なっています。また、状況に応じて他の成形を手伝うこともあります。さらに、工場で使用している機械のメンテナンスも行なっています。工程のうち、仕上げなど一部では手作業もありますが、ほとんどは機械を使っての作業です。



● この仕事を目指したきっかけ

工業高校の電子工学科で学びましたが、学ぶうちに別の進路が合っているかなと感じていました。そして、就職先を決める際に先生から推薦されたのが、マルワイ矢野製陶所でした。手作業が中心の仕事かと先入観を持っていましたが、入ってみると機械を使う仕事で、最初は意外に感じました。



● この仕事の面白さ、やりがい

20代の社員が多くて、みなさん良い人ばかりです。会社は人柄を重視して採用しているそうで、どの部署へ手伝いに行っても、その実感があります。また、いろいろな部署で仕事をする機会が多いため、そのたびに新鮮な気持ちで取り組めることが面白いと感じます。生産しているものは、表立って目立つものではありませんが、どの顧客に届けられるものか分かるようになっていきますので、自分たちの作ったものが、どのように使われるかを想像しながら仕事できて、やりがいになっています。

【会社紹介】

■ 合資会社マルワイ矢野製陶所

■ 〒489-0918

愛知県瀬戸市北脇町216

■ TEL 0561-82-6232

■ <https://www.maruwai.co.jp/>

会社設立は1957年(昭和32年)ですが、創業から130年以上の歴史があるセラミックス製品メーカーです。マグネシア、ジルコニア、アルミナを使用したルツボ、こうばち、サヤなど、少量多品種を製造しており、近年は燃料電池部品や、半導体・電池を生産する際に必要な機材も多く作っています。他社との共同や、自社単独での研究開発にも積極的に取り組んでいます。

佐藤さんは人柄が良いから
どの部署でも歓迎される。
真面目にコツコツ、経験を積んで
くればもっと活躍できる。

代表社員
矢野 仁さん



窯業

一貫生産だから、
モノづくりの実感がある。



同じ作業を続ける
だけじゃない
チャレンジングな作業で、
ステップアップできます。

どうい
陶榮株式会社
製造グループ成形チーム
サスラー 朗敏(ロビン) さん
(2014年入社)

仕事内容

メインは成形ですが、どの工程もサポートできます。

やきものをつくる工程のうち、主に成形を担当しています。材料を成形機に投入し、形が整えられたものを乾燥する場所へ運びます。これ以降は乾燥して焼成し、焼き上がったものを選別し梱包して出荷という流れを、自社で一貫して行なっています。メインで担当するのは成形ですが、状況に応じて焼成を手伝うことがあるなど、全ての工程を横断して仕事をする事が多々あります。このように、最初から最後まで、どの工程にも関わることができますので、モノを作っている実感があります。



● この仕事を目指したきっかけ

父が陶芸作家をしているため、やきものは身近なものでした。工業高校の建築科で学び、建築部という部活動では、学校の50周年記念事業で建てた時計塔の、模型を作ったこともあります。モノづくりが昔から好きで、やきものを勉強したいという思いもあり、「先輩も活躍しているよ」と、進路指導の先生から勧められたことがきっかけです。



● この仕事の面白さ、やりがい

一連の流れを仕事で経験していますから、例えば成形の時点で失敗があると、以降の段階でどのように表れてくるかも理解しています。全体の流れを意識して仕事ができます。また最近では、形状の難しい外装タイルの製造にも携わりました。最初は学びながら作業をしていましたが、想像力を働かせながらやってみると、工場のなかでもかなり上手にできるように上達しました。同じ作業ばかり続けるのではなく、他の工程や、難しい作業にも挑戦できる。多能工化を目指す会社の方針が、面白く、やりがいのある仕事になっていると感じます。

[会社紹介]

- 陶榮株式会社
- 〒479-0807
愛知県常滑市小鈴谷字西ノ脇151
- TEL 0569-37-0800
- <http://www.i-toei.co.jp>

1886年(明治19年)創業。
陶磁器製品メーカーとして、外装・床タイルや、ルーバー・ブロックなどの建築用製品を中心に、鋳造用の湯道陶管なども生産しています。製品には、複雑な形状のものや長尺品など、さまざまなものがあり、伝統的な製造手法を求められるものもあります。それらに柔軟に対応できる技術力と、挑戦する姿勢が特徴です。

好奇心や興味をもってくれば
工場のどこでも活躍できる。
積極的な人には相応の評価で
応えたい。

代表取締役社長
関 俊治さん



窯業

社員の自主性に任せ、
背中を押してくれる。



作ること、教えることの
両方に興味があったから
この仕事がピッタリでした。

やまげんとうえん
有限会社山源陶苑
TOKONAME STORE 店長
加藤 明夏 さん
(2014年入社)

仕事内容

アンテナショップを任されています。

自社ブランド「TOKONAME」のアンテナショップ、「TOKONAME STORE」の立ち上げ時に入社し、オープン当初から店長を任されています。

ショップは小売と体験教室の両方でお客様を迎えており、基本的にはひとりで担当していますので、買い物に来たお客様に販売員として接客することもあれば、体験教室で先生をすることもあります。

大学で教員免許を取得しており、教える仕事に興味がありましたし、接客のアルバイト経験もありましたので、それらが役立っています。



● この仕事を目指したきっかけ

大学のデザイン科を卒業後、陶芸の世界に魅力を感じたため、常滑の陶芸研究所に入って学びました。

そして、その卒業時期に山源陶苑がTOKONAME STOREのオープンを予定し、オープニングスタッフを探していたのです。

陶芸研究所に社長が来て、ブランド展開を話してくださり、面白そうだと感じたことを覚えています。



● この仕事の面白さ、やりがい

やきものは、自然の素材が形になって、普段使えるものになるところが魅力です。

山源陶苑は鯉江社長が先頭に立ち、いろいろなことに挑戦していますので、それに携われることが面白いと感じています。

今の目標は、陶芸エデュケーター兼作家として独立することです。いろいろなところで勉強して経験を重ねるうちに、自分の力でやってみたいと考えるようになりました。社長に相談したら「やりたいと思ったときが一番いいタイミングだよ」と背中を押してくれました。今後は私なりに、やきものの魅力を伝えていきたいです。

【会社紹介】

- 有限会社山源陶苑
- 〒479-0832
愛知県常滑市原松町3-7
- TEL 0569-35-4657
- <http://tokoname.com/>

1967年(昭和42年)に創業した弊社は、自社ブランド「TOKONAME」を展開し、常滑焼の伝統を更新するチャレンジを行なっています。独自の調合を施した土は、素材の時点で色付けをしてあり、釉薬を用いず焼き締めるため、土肌のやさしい肌触りです。インターネットやSNSを介して、世界からも注目されています。

やきものが好きで熱意もある、
そういう人にとって
良い経験を積める会社で
ありたい。

代表取締役社長
鯉江 優次 さん



窯業

勉強しがいのある 瓦づくり。

製造部 本社第1工場
柴田 将成さん
(2017年入社)
のし瓦を中心に
製造しています。

腕前を求められる
手作り瓦が
面白いです。

えいしろうがわら
栄四郎瓦株式会社

製造部 生産管理係
今吉 銀河さん
(2017年入社)
手作業で特注の瓦を
作っています。

瓦づくりに一貫
して携われます。

仕事内容

柴田

第1工場では、機械を使って瓦を製造しています。材料を機械に投入するところから、乾燥、焼成、品質管理を経て梱包まで、一連の工程を担っています。また、工場が稼働していないときには機械のメンテナンスを行います。瓦づくりは、気候の影響など難しい微調整が必要ですが、憧れの先輩は難なくこなしていました。私も経験と勉強を続けて、そのレベルに近づきたいと思っています。

今吉

文字を彫った瓦、単品オーダーの瓦、連結した瓦など、機械で作ることができない特注品の瓦を手作業で製造しています。入社当初は工場で働いていましたが、3ヶ月ほどの時点で難しい特注品オーダーが入り、手先が器用だと抜擢されて以来、この部門で働いています。いずれは学校で学んできた芸術的な部分を生かして、鬼瓦も作れるようになりたいです。



● この仕事を目指したきっかけ

柴田

大学で建築関係の勉強をして、就職先として建材に注目したときに、愛知県の瓦が全国シェアNo.1だと知りました。そこで、瓦メーカーを探して栄四郎瓦を見学し、雰囲気の良さを感じてここで働こうと決めました。

今吉

大学でデザインを学び、芸術性と実用性を両立できる製造業はないかと探しているうちに、瓦に注目するようになりました。栄四郎瓦は手作りの部門もあると知って、ここで働きたいと感じました。

● この仕事の面白さ、やりがい

柴田

現在の第1工場では、瓦づくりを最初から最後まで一貫して担当する仕組みになっており、どこで失敗すると、どこで何が表れてくるかなど、一貫した瓦づくりを学びやすいと思います。モノづくりをしているという実感が、やりがいにつながっています。

今吉

私が担当する瓦にはさまざまなものがあり、ときには技術的に難しいオーダーがあります。それらを工夫して、どうにか完成できたときには大きな達成感があります。腕前を試されるような難しい仕事ほど、大変な反面、面白いです。

【会社紹介】

- 栄四郎瓦株式会社
- 〒447-8512
愛知県碧南市白沢町1-38
- TEL 0566-48-5111
- <http://www.eishiro.co.jp>

栄四郎瓦では、いぶし瓦、平板瓦、カパラスなど、さまざまな瓦を製造販売しています。創業は1801年(享和元年)と極めて古く、地場産業である三州瓦を長年生産。本社工場はじめ多くの工場施設を有しており、いぶし瓦については全国最大の生産量を誇ります。



瓦づくりは大変なことが多く、
難しい作業もあります。
ひとつずつ覚えて未来を
引っ張ってほしい。

管理部 総務課 主任
小野 達也さん

窯業

アットホームな 雰囲気で働ける 人間関係。

製造部
大屋 琢磨さん
(2008年入社)
機械を使って瓦を
生産しています。

上の人たちが話しやすい
人ばかり。その雰囲気が
浸透して居心地を良く
しています。

さんしゅうのやす
三州野安株式会社

商品管理部
野村 あやのさん
(2017年入社)
事務仕事に
プラスαがあります。

品質保証部
仁木 綾香さん
(2013年入社)
瓦の品質をチェック
する仕事です。

仕事内容

- 大屋** 工場で瓦を作っています。現在は新人の育成を任されることも多いため、作業しながら新人に指示を出すことも仕事の一端です。教えるときは先輩にならって、機械操作を教えるだけでなく、手順の意味を理解できるよう心がけています。
- 仁木** 製造部の作った瓦をチェックして、正しい品質を保っているかどうかを確認しています。基本的にはひとりで黙々と検査をして、もし品質の良くない瓦があった場合は、上司に報告する仕事です。
- 野村** 主に事務仕事です。デスクでパソコンに向かって作業を続けるような仕事は苦手だったのですが、ドライバーさんなど誰かと話をしたり、体を動かすこともあったりして、単調ではない仕事で自分に合っています。



● この仕事を目指したきっかけ

- 大屋** モノづくりに漠然と興味を感じていた就職活動の時期に、漫画の影響で瓦づくりを知りました。瓦メーカーを探して最初に面接を受けた会社がここでした。
- 仁木** 企業説明会で三州野安のことを知りました。最初はモノづくりに瓦にも、あまり関心はなかったのですが、仕事をしているうちに屋根に目が行くようになりました。
- 野村** モノづくりの仕事をしたいと、人間関係を重視して学校の先生に相談したら、三州野安を紹介されました。面接の時点でも良い印象を感じて入社を決めました。

● この仕事の面白さ、やりがい

- 大屋** 瓦を作る工程では確認すべき点が多くあり、大変なこともあります。ときにはトラブルで止まってしまうこともありますが、その原因を自分の力で見つけられて、解決できたときには「仕事が分かった」と嬉しいですね。また、新人を教育する立場ですから、教えている後輩が成長してくれることもやりがいになっています。
- 仁木** 検査の仕事ですから、状態の良くない瓦を見つけて、上司に報告できたときは「ちゃんと見つけられた」と嬉しく感じます。この仕事を始めたころよりは、経験を重ねて目が利くようになったと思います。
- 野村** 最初は品質保証部でしたが、1年ほど前に商品管理部へ異動したため、まだ覚えることばかりです。それでも、忙しい1日を上手にこなせたときはやりがいを感じます。人との接点が多い仕事で、業者さんなどから話しかけていただけることも多々あります。また、分からないことは先輩たちに聞けば、いつでも丁寧に教えてくれます。

[会社紹介]

- 三州野安株式会社
- 〒444-1323
愛知県高浜市田戸町二丁目2-44
- TEL 0566-52-1148
- <http://www.noyasu.com>

大正2年創業で、「日本三大瓦」のひとつに数えられる「三州瓦」をはじめ、陶器製瓦を幅広く製造・販売する老舗瓦メーカーです。愛知県高浜市に本社を構え、半田市、高浜市に生産拠点を持ち、さらに東京都、福島県に営業拠点があります。創業以来の伝統的なモノづくりを継承しつつ、徹底的な品質管理を維持しながら、新たな製品開発にも挑戦しています。

製造本部 次長
仲嶺 秀喜さん

彼らには言われたことだけでなく、発想や想像力を生かしたアイデアで、もっと会社を良くして貰いたい事を期待しています。

